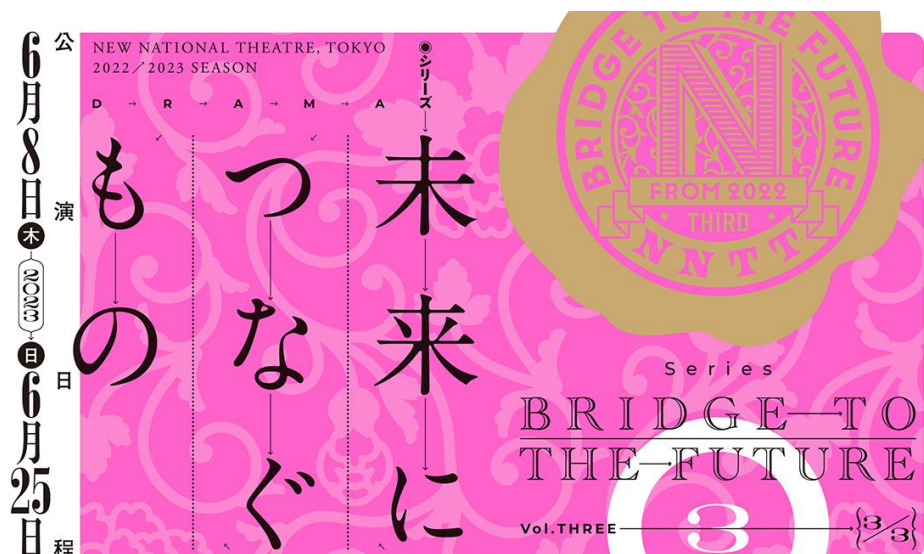


シリーズ【未来につなぐもの】Ⅲ
新国立劇場『楽園』

話題の作家・山田佳奈と注目の演出家・眞鍋卓嗣が、新国立劇場初登場！
 日本のどこかの島を舞台に繰り広げられる、女たちの物語。

楽園

THE
BLISSFUL
LAND



豊原江理佳



土居志央梨



増子倭文江



西尾まり



清水直子



深谷美歩



中原三千代



作：山田佳奈



演出：眞鍋卓嗣

芸術監督：小川絵梨子

4月8日（土）10:00～ 一般発売 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

新国立劇場 制作部演劇 広報担当 関

TEL: 03-5352-5738 FAX: 03-5352-5737

〒151-0071 東京都渋谷区本町1-1-1



作品について

日本の劇作家の新作をお届けするシリーズ【未来につなぐもの】第三弾は、□字ック主宰、演出家、映画監督など幅広く活動する山田佳奈の新作です。

伝統継承と変化に揺れる地方都市の姿を通して現代の日本が抱える問題が浮かび上がります。

演出は、劇団俳優座に所属し、劇団外でも幅広く活躍する注目の眞鍋卓嗣。話題の作家と演出家が「今」をどのように表現するのか、ご期待ください。

あらすじ

日本のどこかの島。年に一度の神事の日。

世話役の「おばさん」（中原三千代）は、「村長の娘」（清水直子）と「区長の嫁」（深谷美歩）の鉢合わせに気が重いと自分の「娘」（西尾まり）にこぼしている。村民の高齢化で、「若い子」（豊原江理佳）ら移住者に頼らざるを得ない昨今、旧来の村長と革新派の区長が対立しているからだ。

そんな中、テレビ局の「東京の人」（土居志央梨）は、神事を撮影しようと隠しカメラをしのばせる。カメラに気づいた神職の「巫（カンナギ）さま」（増子倭文江）は.....。

作 山田佳奈からのメッセージ

様々な価値観が急速で変化していく新しい時代に、自分はどうあるべきなのか――。

「未来につなぐもの」というテーマで戯曲を書きおろすことが決まったとき、わたしの頭に真っ先に思い浮かんだのは、取材で訪れた離島のことでした。手付かずの大自然が残る絶景に、息を呑むほど美しい海。そこにはまさに天国のような世界が広がっていて、かつてこの島が戦場であったという事実が信じ難いものでもありました。

いつの時代も我々は懸命に生きて、その度に変化してきました。それらは動物の進化・絶滅と同じで、生き残るために導き出した正しい選択の成果です。しかし現代では必要以上に正しい選択を重視するようになり、ときに反対の意思を示す対象を否定して攻撃するようにもなりました。果たして正しい選択とは何なのでしょう。持続可能な未来を築くためにSDGsの目標が掲げられ、環境、貧困、教育、ジェンダーギャップなど多くの問題を前に、我々は何を選んで、何を考えなければならないのか。いままでと同じやり方では上手くいかない中で、将来に対する悲観的な気持ちも湧いてきますが、これからの進化に向かって、女性として何を理想としていくのか。それら全てに結論を出すのはとても難しいことだけど、わたしは不完全を受け入れて、歴史を受け容れたい。まずは知るところから始めたいと考えています。

演出 眞鍋卓嗣からのメッセージ

不安は分断を生み出す。私たちは不安だから意見の違う相手を嫌う。不安だからレッテルを貼り知ったつもりになる。不安だから反対の立場の人間を切り落とそうとする。しかし、その分断がどれだけ意味のあることなのか。結局は敵だと思っている人間も自分と地続きの場所に立っている。相手の場所を切り崩せば、自分の足場を少なくしていることに変わりはない。不安や不安定とどう付き合うか。それが、これから求められる人間的強さになるのかもしれない。人は不安定から逃げるために決めつけたがるが、それでうまくいく世の中とは到底思えない。

山田佳奈さんと作品について打ち合わせをさせていただいているうちに、このようなことが頭に浮かんできた。山田さんは非常に熱心で、これまでのご自身のスタイルに留まらずに描こうとする強い意欲を感じる。その熱に私も存分に応えたい。出演者もスタッフも素晴らしい方々に集まっていただくことができた。はじめましての方も多く、どのような化学反応が起きるか予想がつかないが、みんなで、この大きなテーマである「未来につなぐもの」を紡ぎ出したいと思っている。

スタッフプロフィール

作：山田佳奈 (YAMADA Kana)

1985年4月6日生まれ。神奈川県出身。脚本家・演出家・映画監督。元レコード会社のプロモーターを経て、2010年3月□字ックを旗揚げ。以降全ての脚本演出を手掛けている。

2020年 自身初の長編デビュー『タイトル、拒絶』が東京国際映画祭日本映画スプラッシュ部門に選出、更に東京ジェムストーン賞を受賞。

近年の主な作品に、Netflixオリジナルドラマ『全裸監督』脚本、水戸芸術劇場ACM劇場プロデュース舞台『ナイフ』脚本・演出など外部作品への書き下ろしも積極的に行っている。初小説『されど家族、あらがえど家族、だから家族は』を双葉社より出版。モーニングツーにて漫画『都合のいい果て』が連載中。

演出：眞鍋卓嗣 (MANABE Takashi)

劇団俳優座文藝演出部所属。劇団では自らの企画によりアルベール・カミュ、ニック・ペイン、ジェイムズ・グレアム、横山拓也の書き下ろしなどの演出作を意欲的に発表し続けている。

近年の外部での演出作品にブロードウェイ・ミュージカル『ドリームガールズ』、名取事務所『ああ、それなのに、それなのに』などがある。劇団俳優座『雉はじめて鳴く』、名取事務所『少年Bが住む家』の演出にて第55回紀伊國屋演劇賞個人賞および、第28回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。劇団俳優座『インク』、音楽劇『海王星』の演出にて第29回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。本年も劇団俳優座『猫、獅子になる』の演出にて第30回読売演劇大賞優秀演出家賞を3年連続で受賞した。

出演者プロフィール

豊原江理佳 (TOYOHARA Erika)

若い子

2008年、ミュージカル『アニー』でデビュー。単身ニューヨークでのレッスンなどを経て、16年、ミュージカル『アップル・ツリー』に出演。近年の主な出演に映画『キネマの神様』、ドラマ『ホームルーム』『Miss!?・ジコチョー～天才・天ノ教授の調査ファイル～』『マジで航海してます。～Second Season～』などがある。

【主な舞台】『ゆびさきと恋々』『時子さんのトキ』『Whose Playing that "ballerina"? そのバレリーナの公演はあの子のものじゃないのです。』『絶唱サロメ』『2.8次元』、ミュージカル『ザ・ビューティフルゲーム』『The Fantasticks』『EDGES』『ソーホー・シンダース』『オン・ユア・フィート』『タイタニック』など。新国立劇場では『ピーター&ザ・スターキャッチャー』に出演。

土居志央梨 (DOI Shiori)

東京の人

大学在学中に受けたオーディションで、映画『彌勒』でデビュー。映画『二人ノ世界』ではヒロインに抜擢された。これまでの主な出演に映画『赤い玉』、ドラマ『大河ドラマが生まれた日』『初恋の悪魔』『シェフは名探偵』『太陽の子』、NHK大河ドラマ『青天を衝け』、NHK連続テレビ小説『おちょやん』などがある。

【主な舞台】『アンナ・カレーニナ』『人の気も知らないで』『かぞくららばい』『広島ジャンゴ2022』『夜への長い旅路』『グリークス』『グレーテルとヘンゼル』『糸井版 摂州合邦辻』など。

西尾まり (NISHIO Mari)

娘

1980年代に多くのドラマで名子役として人気を集め、94年『NEVER SAY DREAM』で初舞台。近年の主な出演に映画『望み』『テロルンとルンルン』『アゲイン』、ドラマ『愛しい嘘ー優しい闇ー』『婚姻届けに判を捺しただけですが』『泣くな研修医』などに出演。

【主な舞台】『アンナ・カレーニナ』『女の一生』『ザ・ウェルキン』『友達』『三婆』『欲望という名の電車』『遊侠 沓掛時次郎』『地獄のオルフェウス』『火のようにさみしい姉がいて』『夜中に犬に起こった奇妙な事件』『かもめ』『英国王のスピーチ』など。新国立劇場では、『あわれ彼女は娼婦』『喪服の似合うエレクトラ』『涙の谷、銀河の丘』に出演。

清水直子 (SHIMIZU Naoko)

村長の娘

1992年、劇団俳優座入団。以降、劇団内外の数々の舞台に出演。2012年、『パック・オブ・ライズ』『野がも』により、第20回読売演劇大賞優秀女優賞受賞。主な出演映画『鈴木さん』『つぐない』『光の中で』『関ヶ原』など。

【主な舞台】『猫、獅子になる』『戒厳令』『雉はじめて鳴く』『首のないカマキリ』『城塞』『狙撃兵』『七人の墓友』『とりつくしま』(以上、劇団公演)、『入管収容所』『サヨナフ』『フタマツヅキ』『愛、あるいは哀、それは相。』『墮ち潮』『獣の時間』『The Dark City』『満州戦線』『SCRAP』『ある王女の物語』など。

深谷美歩(FUKAYA Miho)

区長の嫁

新国立劇場演劇研修所第二期修了。さいたまネクスト・シアター出身。これまでの主な出演に映画『騙し絵の牙』『岸边の旅』『R100』『八日目の蝉』『消えてなくなれ』などがある。

【主な舞台】『夏の砂の上』『野良女』『きらめく星座』『頭痛肩こり樋口一葉』『地獄のオルフェウス』『神なき国の騎士－あるいは、何がドン・キホーテにそうさせたのか?』『2012年・蒼白の少年少女たちによる「ハムレット」』『海辺のカフカ』『ルート99』など。新国立劇場では、『誤解』『るつぼ』『雨』に出演。

中原三千代 (NAKAHARA Michiyo)

おばさん

1983年、劇団善人会議（現・扉座）に入団。娘役から老婆役まで幅広くバイプレイヤーとして活躍。これまでの主な出演に映画『ただいま、ジャクリーン』、ドラマ『物書同心いねむり紋蔵』などがある。

【主な舞台】『最後の伝令 菊谷栄物語－1937 津軽～浅草－』『神遊（こころがよい）一馬琴と華山一』『ホテルカリフォルニア－私戯曲 県立厚木高校物語－』『解体青茶婆』『お伽の棺 2020』『新浄瑠璃 百鬼丸～手塚治虫『どろろ』より～』など。新国立劇場では、こつこつプロジェクト『あーぶくたった、にいたった』に出演。

増子倭文江 (MASUKO Shizue)

巫(カンナギ)さま

劇団青年座所属。舞台を中心に、ドラマ、吹き替え、CMでも活躍。これまでの主な出演に映画『お終活 熟年！人生、百年時代の過ごし方』『山中静夫氏の尊厳死』『はずれ家族のサーヤ』『家族はつらいよ2』、ドラマ『裕さんの女房』『その女ジルバ』『忠臣蔵の恋～四十八人の忠臣』などがある。『ボビー・フィッシャーはパサデナに住んでいる』『地の乳房』で第22回、『荒れ野』にて第27回読売演劇大賞優秀女優賞受賞。

【主な舞台】『博士の愛した数式』『GOOD BOYS』『頭痛肩こり樋口一葉』『奇跡の人』『葉隠れ旅館物語』『母 MATKA』『CHIMERICA チャイメリカ』『砂塵のニケ』『をんな善哉』『闇に咲く花』『妻と社長と九ちゃん』など。新国立劇場では『月・こうこう、風・そうそう』『ピグマリオン』『わが町』に出演。

公演概要

【タイトル】 新国立劇場 2022/2023シーズン 演劇
楽園

【スタッフ】
作 山田佳奈
演出 眞鍋卓嗣

美術 伊藤雅子
照明 佐藤 啓
音楽 久米大作
音響 加藤 温
衣裳 山下和美
ヘアメイク 高村マドカ
演出助手 城田美樹
舞台監督 川除 学

芸術監督 小川絵梨子
主催 新国立劇場

【キャスト】

豊原江理佳 土居志央梨 西尾まり 清水直子 深谷美歩 中原三千代 増子倭文江

【会場】 新国立劇場 小劇場 (京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結)

【公演日程】 2023年6月8日(木)～25日(日)

【料金(税込)】 A席7,700円 B席3,300円

【一般発売】 4月8日(土) 10:00～

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL: 03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

☆本公演は新型コロナウイルス感染予防、拡散防止対策をとって上演いたします。

詳細: https://www.nntt.jac.go.jp/release/detail/23_017576.html

* **Z席1,650円** Z席(各日10席)は、公演当日朝10:00から、新国立劇場Webボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。※先着販売後、残席がある場合は、公演当日の開演2時間前からボックスオフィス窓口でも販売いたします。※電話予約不可。* **当日学生割引**
公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。*新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています。